

ホームページ
QRコード



令和8年6月30日
北区立豊川小学校
校長 中村 順子

「おもいやる子」から「おもい『あう』子」へ

校長 中村 順子

6月は「ふれあい月間」、そして「読書旬間」でもありました。豊川小ではそれに合わせて、縦割り班「フレンズ班」で、6年生による読み聞かせタイムを行うのが恒例となっています。

終了後、6年生の数人にインタビューをしてみました。すると、「実は…」と悩みを吐露してくれました。「(フレンズ)班には、1年生から5年生までがいるので、どの学年の人も喜んでくれる本を探したつもりだったけれど、聞いているときの反応が薄くて、終わった今も心配で仕方がないです。」
「1年生は喜んでくれていたけれど、5年生には簡単すぎた内容の本だったかな…」
「班の人は静かに聞いてくれていたんだけど、ちゃんと心に残っているか気になっています。」

＊

6年生の担任からは、事前にたくさんの本を手にとってどれにしようか悩んだり、読み方の練習をしたり、座らせ方を考えたりと、6年生たちが様々な準備を重ねていたことを聞いていたので、先のインタビューからも6年生の真剣さが伝わってきて、私は感心するばかりでした。

そこで、聞き手として参加していた5年生がどのように感じていたのか気になり、同じ班の5年生たちに、6年生が抱いていた心配をそっと伝えてみました。

すると
「お話は、1年生だけでなく、ぼくたち5年生にとっても、本当に楽しかったです。」
「6年生がわたしたち5年生のことをそんなに気にしてくれていたなんて、びっくりしました。」

と、6年生の心配は杞憂だったことが分かりました。また、
「来年は自分たちがこんなにきちんと読み聞かせができるかな。心配です。」
など、次への思いもしっかりともっていたことがわかり、大変うれしく思いました。

＊

本校の教育目標の一つに「おもいやる子」があります。この「おもいやる」という言葉は、自分が相手に対して気配りをするという、一方向の働きかけとして捉えられるかもしれませんが、今回の読み聞かせタイムでの6年生と5年生の気持ちは、「おもいやる」を超え、互いに「おもい合う」という双方向の気持ちへと昇華しているように感じました。

豊川小の子供たちから、「おもいやり」を相手に求めるだけでなく、互いに「おもいあう」という一段上のステップへと成長している姿が垣間見られていることは、校長として何よりうれしく思います。

7月半ばには夏休みとなり、各ご家庭にお子さんをお返しする形となります。保護者の皆様には、長い夏休みに、各ご家庭において、「おもいあう」経験をたくさん積ませていただけますよう、お願いいたします。そして9月には、子供たちが心身ともに一回り成長した姿で学校に戻ってくることを願っています。



【リノベーション工事情報】

工事中だった本校舎中央部分が、間もなく完成します。そこで、8月下旬に本校舎への完全引っ越し作業を行い、9月1日からは職員室を含むすべての教室の運用を本校舎で開始します。夏休み明けには、リノベーション工事が完了した新たな校舎での教育活動がスタートします。

今後は校庭の工事が始まります。詳細につきましては9月に改めてお知らせいたします。引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

